

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570206789		
法人名	(有)クラウド		
事業所名	グループホーム集い		
所在地	秋田県能代市高埜58-8		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で明るい雰囲気・環境の中で、利用者の皆様が快適で安心した生活が出来るよう心掛けていくと共に、利用者の皆様が、生活の中でご自身で出来る事を見出し、支援が出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道路を挟んだ向かい側には、大きなショッピングモールがあり買い物には事欠かない環境にある。
職員会議やケアカンファレンスの他に、支援の合間をみて気付きを伝え合うミニミーティングを随時行い、情報交換することで様々な場面における利用者の状況の把握に取り組んでいる。利用者の中には、退職した職場の元同僚が、食事やドライブに誘い出してくれたり、以前住んでいたアパートの隣室に住むご夫婦が様子伺いに来訪したりと、これまでの関係性が継続している例が多くある。管理者と職員の意見交換が随時行われ、風通しの良い職場環境が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を意識・共有し、利用者様がその人らしく安心・安定した生活を送れるような環境を提供できるよう努めている。	開設当初からの理念を事業所の目指す姿と捉え、その人らしく、個人の要求に対応したサービス提供を目指し、日課にとらわれない日常生活に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	努力はしているが、周囲が商業施設・学校ということもあり難しい。少し離れた所に古くからある自治会と新興住宅地はあるものの、拒否反応が強い。	代表者自らが町内会加入について働きかけを行ったが、思うような結果にはなっていない。行政へ状況説明を含め相談しているが、日常的な交流までには至っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	外部との交流に努力が必要と思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で得た情報を職員間で共有し、日々の支援に活かしている。開催数が足りない為増やす必要がある。	利用者の家族が1名でも参加できるよう、会議開催の都度電話連絡で声掛けを行っている。代表者と管理者は、会議の重要性を認識しており、より有意義な内容にするため思案を続けている。	地域をどう巻き込んでいくのか検討を重ね、これまでの関係性にとらわれず、会議参加者の輪を拡げるための取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当ホーム担当の方と推進会議等を通じ交流を持ち、相談事等あれば協力してもらえる体制をとっている。	運営推進会議の開催毎に担当者の参加を得て、情報交換の機会がある。介護保険制度等運営の相談については、市の指導もあり「介護保険のサービス内容についての質問票」を用いてFAXによる連絡が主である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に身体不拘束を載せ、ホームの方針を説明し理解して頂けるよう努めている。又、職員に対してはマニュアルを用意し、いつでも見れるようにしている。	身体拘束が与える利用者への悪影響を管理者を含め職員が理解している。職員会議の際には、重要な事項等職員と確認しあい共有している。	身体拘束の禁止や虐待防止の重要性を認識しているものの、様々な分野における計画的な研修の実施やそれらの記録について確認できる書類の未整備が散見されるため改善を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で、虐待防止の意識を共有し支援にあたって学ぶ機会を持ち、研修参加の機会が持ていないため、改善の必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで必要とする利用者がいなかった為、学ぶ機会を持たず、解らない事は市役所の担当者に相談し支援に活用していたが、研修の機会をもつ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書を見ながら十分な説明を行い、質問があれば理解して頂けるまで話し合いよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、全く上がってこないのが現状。家族が訪問した際、意見等聞き出す機会を設け、サービス向上に活かすよう努めている。	前月の利用料支払いのため訪問してくれる家族に対し、利用者の様子を伝えるとともに、希望や意見をくみ取るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や休憩時間を利用し意見交換の出来る環境は出来ており、都度代表者に報告しているが、反映されるまで時間がかかったり、却下される事も多い。	職員の意見は、職員会議や日常会話からでもくみ取り、検討した上で管理者が代表者へ伝えている。建物等設備に関することはすぐには出来ないが、職員間でアイデアを出し業務に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望をとり、添えるよう努めている。勤務条件等については、代表者と話し合いが持てるよう努めているが、容易ではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等受講出来るよう配慮したいが、勤務が優先になる為機会を持つのが難しい。包括支援センターを利用した内部研修を始めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した職員は、情報交換等の交流を多少はとれているが、ほとんどの職員は交流を持つ機会がない為、考える必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が、不安や困り事を職員に気軽に相談できるよう、コミュニケーションを大事にしている。また、ご家族様から得た情報を支援に活かすようつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな事でも気軽に相談・話し合いができる雰囲気づくりに努めている。来所時には、話す機会を設け信頼関係が持てるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとる事により、その人に合った家事支援等を提供し、自分が必要とされているという意識を持っていただくよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様が疎遠にならないように支援するよう努めている。入所年数が長くなってくると、面会の回数も減ってくる為、関係改善に努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が自分から人に会いに行く事は難しいが、友人等が気軽に訪問出来るような環境づくりに努めている。又、通院時等に希望があれば、馴染みの場所等に訪れている。	利用者本人から直接要望を聞くことは難しくなってきたと感じている。退職した職場の元同僚が、食事やドライブに誘い出してくれたり、以前住んでいたアパートの隣室に住むご夫婦が様子伺いに来訪したりと、関係の継続に努めている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格等の把握に努め、職員が加わる事で利用者様同士が関わり合えるよう努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話等で近況を聞いたりし、気軽に相談出来る関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望等を気軽に言えるような関係・雰囲気作りで努めており、ホームのルールを守りながら、出来る限りご本人の意思を尊重している。	ひとり一人の要望にすぐに対応できない場合もあるが、職員それぞれが利用者毎にコミュニケーションの方法を考えながら、話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人やご家族様からこれまでの情報を収集し、その内容に基づいた支援に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様個人の状態を把握すると共に、日々の変化を把握し、職員間で共有する事に努め、支援に活かすよう努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の希望を聞いたり、カンファレンスにて職員個々から見た利用者様の状態をまとめている。又、ご家族様にはその月の状態を知らせ、希望を伺っており、それらを活かしたプランをお作成するよう努めている。	支援の合間に気付きを伝え合うミニミーティングを随時開催し、様々な場面の利用者の状況を確認しながら、計画作成担当者が中心となり計画を作成している。介護計画は、利用者毎に見開きで介護日誌と一緒にファイリングされており、都度確認できるよう工夫されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に日々の様子や状態の変化等を記入する事で、情報の共有は出来ている。職員会議等で気付いた事等を話し合い、プランに反映されるよう努めている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や散歩等、希望があれば外出はしているが、限られた利用者になっているため、見直す必要があると思われる。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に個々の主治医へ通院し、受診している。利用者の状態に変化があれば主治医に相談し、結果をご家族に報告している。治療が変わるときは、必ずご家族様の判断をもらっている。	入居されるまでのかかりつけ医を尊重し、通院支援を行っている。歯科については、往診対応が可能な歯科医院に依頼し、利用者の負担感がないよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護利用時に、利用者それぞれの健康状態の変化を報告・相談し、必要があれば受診している。又、訪問看護師とは24時間連絡が取れる体制になっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療連携室の相談員を通じ、情報を提供したり、退院に向けての情報をもらったりしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、ご家族の希望を伺い話し合いを持つようにしている。ホームで出来ることを納得して頂いたうえで、方向性を決め訪問看護・協力医の往診等で対応・支援している。	重度化や終末期の状態になると、事業所としてできることと家族等の思いをすり合わせ、対応の方針を決めている。職員間でも看取り等に向かう際に、心構えや思いを事前に聞き、事業所全体で支援できるよう体制づくりをしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習等を実施している。連絡網を作成し、迅速な対応が出来るよう努めている。又、マニュアルを作成し、いつでも閲覧出来る環境にしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しており、その都度いろいろな時間帯を想定し行っている。地域との協力体制は、お願いはしているもののなかなか難しいのが現状。	夜間等場面を想定した避難訓練を実施している。オール電化住宅であり、非常災害時を考え、非常用電源や反射式ストーブ、備蓄食糧を含め冷蔵庫にはやや多めの食材が入れてある。二階建てのため避難時の課題を意識し、話し合いがされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対し、十分配慮しているつもりだが、共に過ごす時間が長いと遠慮が無くなってしまい、声掛けが雑になってしまう事がある為、気をつける必要がある。	同じ会話が繰り返される場合、他の利用者として少し距離をおきながら会話を続ける配慮がなされている。建物の構造上、居間から洗面、浴室、トイレ等水回りが視線に入りやすいため、それを遮るためカーテンを活用したプライバシーの確保を行っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断が出来る利用者とは出来ない利用者を把握し、出来る人に対しては、気軽に考えや希望が言える雰囲気をつくり、引き出すよう努めている。出来ない人に対しては表情等で読み取るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースで過ごせる様、十分配慮している。散歩や買い物等の希望があれば添えるよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容については、定期的に専門職に来所してもらい身だしなみを整えている。入浴を嫌う利用者様もいるが、声掛けを工夫し定期的に入浴出来るよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている。	誕生日や特別な日等は、食べたい物を聞き献立に組み込んでいる。一緒に食事をし、会話を持つようにし、食事が楽しくなるよう努めている。又、個々の状態をみながら一緒に片づけを行っている。	誕生日等では、主役になる人の食べたい物を献立に組み込んだり、手作りのケーキを準備している。食事の準備は職員が中心となり、利用者には食器拭き、おしぼり畳み等片付けを出来る範囲で手伝ってもらっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成し毎食毎に記入している為、全職員が摂取状況を確認し把握する事ができている。又、むせる事がふえてきている利用者に対しては、トロミをつけたり、ミキサー食にして提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい・歯磨きを行ってもらっている。自分で出来ない方に対しては、口腔ケア用品を使いケアを行っている。又、入れ歯の方に対しては、毎日夕食後にポリドントを実施している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに合わせたトイレ誘導を行っている。	トイレで排泄できるよう声掛けや利用者の様子観察に務めている。夜間においては、ポータブルトイレを活用し自立を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄サイクルを把握し、便秘になる前に主治医や訪問看護師に相談している。又、毎日体操の時間を設け、個々の状態に合わせて行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態をみて、無理強いせず、1週間に2～3回くらい入浴出来るよう支援している。入浴を嫌う利用者もいる為、声掛けや欲中の会話を工夫し、入浴を楽しめるよう努めている。	入浴を嫌がる利用者もいるが、入浴すると気持ち良いと言ってくれるため、トイレの促しやお部屋への移動から入浴に繋げるなど、声掛けに工夫をこらしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの昼寝や休息状況、夜間の睡眠状況を把握し、ゆっくり眠れるよう支援していると思う。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院ノートを作成し、お薬手帳と共に事務所に置き、いつでも確認出来るようにしている。服用後の観察をし、副作用等気になる事があれば主治医や訪問看護師に相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に合わせた役割を持ってもらうようにし、充実した日々が過ごせる様支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば散歩や買い物等に出かけられるよう努めている。又、通院時を利用しドライブ等を楽しんでいる。	春の恒例のつつじ見学は、利用者全員で出掛けることとしている。事業所の向かいには、商業施設があるため、希望と体調に合わせて対応している。冬期間は、その機会が減るため、居間で風船バレーやカラオケなど、気晴らしができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族様の希望に応じており、一部の利用者様はご自分で所持・管理している。ただ、金額に関しては、2～3千円にしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話が出来るようにしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭のような雰囲気づくりに努めており、ゆったり過ごせるようにしている。又、リビングの壁に季節感のある張物や飾り物をしている。	嫌な臭い等はなく、居間と台所が続きになっているため、食事の準備時は雰囲気がつたわり、より家庭らしさの演出になっている。居間にある飾り物は、手先の器用な利用者と一緒に作り、季節感を盛り上げている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、リビングで過ごされる方が多く、ゆっくりテレビを見たり、気の合った人同士会話を楽しめるよう、座る場所にも配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族様に使い慣れた物の必要性を説明し、利用者様が安心して過ごせる様な居室づくりに努めている。	長く入居されている利用者も多く、畳のお部屋はテレビや小さなダンス、押入れなど趣がある。ベッド等生活に必要な道具は、各自で持ち込み不安感等ないように配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室の場所を忘れてしまう方もいる為、ドアに張り紙をして表示している。安全を保つ為手すりを付けたり、居室内の整理・整頓に努め転倒等を予防している。		